



## 「タンザニアの学生に物理の授業を！教える喜び実感！」

～平成19年度教師海外研修(タンザニア)～

平成19年度の教師海外研修(北海道地域)では、平成20年1月2日～12日にかけて、小学校・中学校・高校の先生方10名が、アフリカ東部、赤道に近い灼熱のタンザニアを訪問しました。今年度の研修では、教育、農業分野を中心に日本の国際協力の現場を視察するとともに、ダルエスサラーム、モシ、サメ、タンガと都市部だけではなく農村部も訪問し、様々な角度から現在のタンザニアを経験していただきました。

具体的には青年海外協力隊や専門家が活動している学校や、JICAの技術協力プロジェクトの現地などを訪問するとともに、国際協力に携わっている方々やタンザニアの方々とは様々な形で交流していただき、タンザニアの現状、特に教育制度や教員研修、授業実践などについて考えていただきました。



特に教育現場の視察では、単なる視察ではなく、参加した教諭による模擬授業プログラムや日本文化の紹介、タンザニアの学生や教員との意見交換の時間を多くとり、タンザニアをより理解していただけるよう努めました。参加した先生方も積極的にプログラムに取り組み、これらの時間を有意義に活用していました。

最終日には、在タンザニア日本大使館、JICAタンザニア事務所で最終発表会を行い、この研修での成果をそれぞれの立場から発表していただき、10日間に見つけたたくさんの感動と課題をどのように日本の学校現場で活用するかについて意見を交換していただきました。

(JICA札幌 教員社会体験研修員 大久保貴司)



## ～研修の現場から～

世界のお手本は札幌市！都市のエコ問題を考えよう

JICA札幌で今年1月から2月まで実施される集団研修「都市生活型の環境問題」コースは、ブラジル・コロンビア・トルコ・ジンバブエなどの6カ国から7名の研修員が参加しています。彼らはここ札幌で、ゴミ問題や大気汚染など、都市で発生するさまざまな環境問題から人びとの健康を守る対策について学んでいます。



ゴミの分別ゲームにもチャレンジ

今日のテーマは「環境教育」。研修員は札幌市「環境プラザ」を訪れ、市民の環境意識を高める取り組みについて学びました。この環境プラザでは、エネルギー問題や地球温暖化、ゴミの分別・リサイクルなどの環境問題について、誰にでも分かりやすく、楽しみながら学べる体験型の教材がたくさん用意されています。

コロンビアから参加している研修員のラミロさんは「コロンビアでも数年前から環境教育が取り入れられている。環境問題は地域の人びとと共に取り組む必要がある。未来を担う子ども達が環境について学ぶことはとても重要なことだし、この環境プラザのように、まずは分かりやすく紹介することが大切だと思う」と話していました。

こうした世界の国々のお手本として胸を張れるよう、みなさんも身近なところからエコライフを始めてみませんか？



自転車をこいで電気を起こす体験

(JICA札幌 大久保美穂)

## 交代挨拶 国際協力推進員(旭川)が交代します

2005年4月よりお世話になっておりましたが、2008年3月末を持ちまして、退任することとなりました。この場をお借りしまして皆様に御礼申し上げます。  
後任は3月初旬より旭川にて勤務を開始する予定でございます。引き続き倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。  
(国際協力推進員(旭川) 鳥居直樹)

